

唐津藩歴代藩主の移り変りとその政治⑥

～小笠原時代～

分野

歴史

◎地図・写真・統計資料など

■小笠原時代 5代53年

初代 小笠原主(との)殿頭(ものかみ)長昌(ながまさ)

2代 吉岐(いぎ)守(のかみ)長泰(ながやす)

3代 能登(のとの)守(かみ)長会(ながお)

4代 佐(さ)渡守(どのかみ)長和(ながよし)

5代 佐(さ)渡守(どのかみ)長国(ながくに)

小笠原長行(ながみち)

石高6万石

奥州棚倉から唐津藩主となった小笠原長昌は、着任当初から莫大な借財を抱えてその返済に苦慮した。拝領高は水野氏時代と同じ6万石であったが、実際は、水野忠邦の上知により1万石も少なくなっており、財政再建は容易ではなかった。文政6年(1823)、江戸藩邸で死去、嫡子行若(後の老中小笠原長行)が幼少(2歳)であったため、2代藩主には養子の長泰を迎えた。小笠原氏が、33万両と云われた借財返済のため大阪商人の手を借りて打ち出した財政再建策は次のようである。

- ・御国益方を設置し楮を強制的に植付けさせ藩の紙方役所で買上げ製品(和紙)を大阪方面で売りさばく
- ・御産物方では様々な御手仕組〈専売組織〉をつくり、米・麦・大豆・菜種・櫛・干鰯・煎海鼠・干鮑・石炭・綿等の国産の品を七二銭(藩札)で買い占め領内外に売りさばき利益を得る。
- ・御趣法方役所を設け、日銭寸志という名目で村の10～60才の男女から、1日2文宛取立てる。
- ・御手伝金・御借入金等の名目で献金を募り献金者には苗字・帯刀を許可する。
- ・「節儉仕法」を幾度も出して儉約を強制する。

しかし、小笠原藩の財政再建策は功を奏することなく、幕末には藩が抱える借財は60万両を越えたといわれる。

3代能登守長会の治政はわずか2年半で終わった。4代佐渡守長和は、大和郡山城主松平保泰の9男である。弱冠14歳で唐津藩主となり、天保11年(1840)19歳で早世した。近松寺に、値賀川内石工の手になる墓碑がある。5代佐渡守長国は、天保12年信州松本城主松平家より養子に迎えられ唐津藩最後の城主となった。明治4年(1871)廃藩置県により唐津を去り、明治10年(1877)4月65歳で死去、墓は東京烏山幸竜寺にある。

幕末の老中として、江戸幕府の最後を見届けた小笠原長行は、安政5年(1858)～文久元年(1861)の3年間、長国の名代として藩政を執っている。



(唐津ケーブルテレビジョンHPより)



市指定 小笠原佐渡守長和墓地
唐津市西寺町(近松寺)
指定年月日:昭和58年7月24日

(『唐津市の文化財』より)

◎引用・参考文献(出典)

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話: 0955-72-3467

■ホームページ:
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html